

申6号 2022年度年末手当等に関する申し入れ第3回交渉 会社回答が示される！

本日、本部は年末手当等に関する申し入れ第3回交渉を行い、会社は「覚悟をもっての最大限の回答である」とし、以下の通りの回答が示されました。

本部は席上妥結せず回答を持ち帰り、全地本代表者会議を開催し議論を行いました。

【会社回答】

1. 基準額 基準額は、基準内賃金の2.4ヶ月分に20,000円を加えた額とする。
 2. 支給日(予定) 令和4年12月5日(月)する。
- <参考> 平均基準内賃金:331,020円 平均支給額:814,400円
対象社員数:46,700人 平均年齢:39.1歳

怒 席上妥結せず 持ち帰り組織で議論して判断!!

東労組の主な主張

- ・物価上昇が拍車をかけ厳しい生活が強いられる中でも、職場が奮闘し、黒字転換を実現した事に報いた回答と言えず、職場の期待も踏みにじられ、回答を聞く組合員の怒り・不信・不満を抱く思いは計り知れず、到底納得感の持てる回答ではない!
- ・この回答は組合員・多くの社員のモチベーションを下げ、離職率をも上げてしまうのではと危惧する。年間5ヶ月にも満たない期末手当回答で、よしとしているのであれば、その認識・姿勢は質すべきだ。
- ・過去最高を連続し業績が好調の時は「突出感」などを理由に、月数が据え置かれ、業績が悪化した時は「足元の動向」などを理由に賃金がカットされ、業績が回復すれば「好循環をつくり出すことによって還元出来る」とし、黒字転換すれば、「楽観視できない」「予想を下回った」「見通しが不透明」「会社の持続的発展が社員還元につながる」などを理由に賃金カットや抑制されては、働く側はたまらない。
- ・赤字になれば黒字必達、上期黒字になれば下期の黒字必達に向け社員へのメッセージなどで「変化を恐れず果敢に挑戦」「みんなで力強くチャレンジを続ける」などと更なる一層のチャレンジと鼓舞され、賃金が抑制される一方で、まさに「馬車馬のように働け」と言われているようなものである。
- ・再三にわたり述べてきたが「組合員・社員の力、モチベーション維持・向上なくして会社の持続的発展は成し得ない」、その実現に向け労働条件の最たる賃金で応えとの経営姿勢に改めるべきである。

黒字を達成した職場の努力に報いていない!

組合員・社員の声を回答に反映しているのか!

**会社回答は到底納得できるものではない!!
会社回答に全組合員で立ち向かおう!!**